

霧笛抄

264

鈴木俊隆老師のこと

先日、桑港神奈川県人会創立100周年の祝賀会の席上で、長老の松浦茂さんが祝吟をされた。

その漢詩は鈴木俊隆師が書かれたものだと紹介があった。

この詩は記念誌にも収められているので、それを読まれたら分かるが、格調の高いもので、漢文の素養が無ければ、簡単に書けるものではない。

鈴木師がどういう人であったか、松浦さんの短い紹介があったが、参会者の多くには、あまりなじみのない名前だったかもしれない。

大げさな言い方をすれば、鈴木師はアメリカ禅ブームの、一人の

仕掛人だったといってもよい人で、日系人よりもむしろアメリカ人に大きな影響を与えた。

鈴木師は1959年に渡米されて桑港寺の住職になった。69年までその地位にあり、日系人だけでなく、多くのアメリカ人の帰依者が集まり、特に当時のヒッピー世代のインテリたちが、鈴木師の下で参禅に励んだ。その中にアメリカ人の優れた禅僧となったりチャード・ペーカー師らがいる。

鈴木師は一時、桑港寺を退かれて、今度は主としてアメリカ人のための「禅センター」をタサハラやその他3カ所に開いて禅の普及

に専心された。

しかし、その仕事の半ばで、71年、不幸にして遷化(せんげ)された。68歳の定命(じょうみょう)だった。

その後、鈴木みつ夫人が、禅センターの世話をされ、禅のみでなく、広く日本文化をアメリカ人に教育されていたが、老齢のため引退、いま日本の静岡に帰られている。

旧聞になるが、6月27日付のサンフランシスコ・クロニクル紙の死亡記事欄にフィリップ・ホエーレンの訃報が写真入りの4段記事で載っていた。

ホエーレンはアレクサンダー・ギンズバートグや、スナイダーらの友人であり詩人だった。彼は鈴木師を慕い、ペーカー師の下で禅僧になった異色の人で、日本文化が好きで「ザ・ゼンドー」の方丈(ほ

うじょう)として終結した。

ニューヨークにいる友人が最近、この本を読んだかといつて送ってきたのが「Crooked Cucumber」(曲がったキュウリ)という。サブタイトルが「The Life and Zen Teaching of Shunryu Suzuki」となっている。鈴木師の評伝である。ロサンゼルス・タイムズ紙の書評も好評で、ベストセラーにランクされている。

私はまだ読み終っていないが、これを書いた弟子の一人デヴィッド・チャドウィックの師を慕う温かい思いが、文章の行間に表われている。

このような禅の老師がこの日本町におられたことは銘記されてよい。

(のりもと)